

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 藤沢駅前PJ新築工事	階数	地上5F
建設地	藤沢市藤沢字東横須賀490-1外	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	1,200 人
気候区分		年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年8月 予定	評価の実施日	2015年8月1日
敷地面積	1,702 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社
建築面積	1,354 m ²	確認日	2015年8月1日
延床面積	5,103 m ²	確認者	(株) 構想建築設計研究所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 79%
 ③上記+②以外の 45%
 ④上記+ 45%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		その他
総合 総合スポーツクラブに求められる運動空間を最大限確保し、利用者動線・サービス動線をコンパクトにまとめた。主要な運動空間は日中は自然採光が最大限確保できるように計画し、また開口部からのエネルギーロスを抑えるため、Low-eガラス仕様とした。敷地外周部及び屋根部には可能な限り緑化を行った。		周辺地域において、新たなコミュニティやアソシエーションの場の創出を行った。
Q1 室内環境 建築、屋根・外壁部の基本的な断熱性能に加え、外壁開口部は全てLow-eガラス仕様とした。	Q2 サービス性能 コンパクトな利用者動線及びサービス動線を計画した。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内外構(地上部) 緑化並びに建築緑化(屋根部分の一部)を行った。
LR1 エネルギー 潜熱回収型ボイラー、ガスコージェネレーションシステム、プール濾過系統への小型水力発電装置、屋根最上層への太陽光発電パネルの設置を行った。	LR2 資源・マテリアル 耐久年数が異なる部位の改修を行う必要性がある場合、主要構造部の道連れ工事を極力抑えた構成とした。	LR3 敷地外環境 敷地外に対して、騒音被害が出ないように配慮した。また、敷地境界に常緑ヤマボウシなどを植えることで、外壁の圧迫感を緩和する計画とした。管理用車両用駐車スペースを確保した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される